

成田市本三里塚仲町遺跡

— 農業用堆肥施設設置に伴う埋蔵文化財調査報告書 —



平成 18 年 3 月

社団法人 千葉県農業開発公社

財団法人 千葉県教育振興財団

序 文

財団法人千葉県教育振興財団（財団法人千葉県文化財センターから平成17年9月1日付で名称変更），埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度，千葉県教育振興財団調査報告書第537集として，成田国際空港株式会社の西三里塚第2代替地関連施設として，農業用堆肥施設設置に伴って実施した，成田市本三里塚仲町遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，旧石器時代の遺物および縄文時代早期の土器片が検出され，この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

この報告書が学術資料として，また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し，御指導，御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理までご苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成18年3月

財団法人 千葉県教育振興財団

理事長 佐藤 健太郎

凡　例

- 1 本書は、成田国際空港株式会社による西三里塚第2代替地間連施設である、農業用堆肥施設建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県成田市本三里塚仲町240ほかに所在する本三里塚仲町遺跡（遺跡コード211-067）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、成田国際空港株式会社の委託を受け、財団法人千葉県文化財センター（平成17年9月1日付で財団法人千葉県教育振興財團と名称変更）が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は、本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は第2章の一部を西口徹が、その他を池田大助が担当し、編集は池田大助が担当した。
- 6 発掘調査から報告書刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、成田国際空港株式会社、成田市教育委員会ほか多くの方々からご指導、ご協力を得た。
- 7 本書で使用した地図は以下の通りである。
第1図 国土地理院発行 1/50,000地形図「成田」(NI-54-19-10)
- 8 周辺航空写真は、京葉測量株式会社平成13年度撮影によるものを使用した。
- 9 基準点測量及び地形図は日本測地系に基づき行われたものである。
- 10 本書で使用した方位はすべて、座標北である。
- 11 挿図に使用したスクリントーン・記号例は図版中に記載してある。

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 調査の経緯と経過	1
2 調査の方法	1
第2節 遺跡の位置と環境	3
第2章 本三里塚仲町遺跡	3
第1節 遺跡の概要	3
1 下層確認調査(拡張調査を含む)の所見	3
2 旧石器時代石器	3
3 本三里塚仲町遺跡上層確認調査の所見	7
第3章 まとめ	7
報告書抄録	卷末

挿図目次

第1図 本三里塚仲町遺跡位置図	2
第2図 遺跡周辺地形図	2
第3図 本三里塚仲町遺跡上層、下層 確認調査範囲図	4
第4図 本三里塚仲町遺跡下層(拡張)調査範囲図	5
第5図 本三里塚仲町遺跡石器、石製品実測図	6
第6図 本三里塚仲町遺跡包含層出土土器実測図	7

写真図版

図版1 上 航空写真 中 調査状況写真1

下 調査状況写真2

図版2 下層(拡張)調査区遺物出土状況及び土層断面
出土土器片・出土石器類

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯と経過

財団法人千葉県教育振興財團では、成田国際空港予定地内及び関連事業地内に所在する遺跡について、千葉県教育委員会の指導のもと、成田国際空港株式会社の委託により、昭和51年度から計画的・継続的に発掘調査を実施してきている。また、これらの発掘調査成果の一部は既に多数の報告書として刊行されているところである。

今回報告する本三里塚仲町遺跡は、西三里塚に第2代替地が計画され、施設整備の一環として農業堆肥施設の建設が計画され、千葉県教育委員会と成田国際空港株式会社との間で取扱いについて協議した結果、造成地内に所在する595m²の発掘調査を実施する運びとなった（第1図～第3図）。

なお、隣接地には縄文時代早期を中心とする遺跡である西三里塚遺跡、また大きく見ると香取牧の一部と推定される西三里塚野馬土手跡も確認されており、これらについてはすでに平成14・15年度の調査を終了し、報告書が刊行されている。

本三里塚仲町遺跡の発掘調査と整理作業の期間及び調査体制は以下のとおりである。

平成17年度

期 間 平成17年5月17日～平成17年5月24日

組 織 東部調査事務所長 鈴木 定明

担当職員 副所長 池田 大助

内 容 発掘作業（本三里塚仲町遺跡）

上層 595m²/595m²（確認調査）

下層 60m²/595m²（確認調査）

平成17年5月25日～平成17年5月31日（整理）

組 織 東部調査事務所長 鈴木 定明

担当職員 副所長 池田 大助

内 容 整理作業水洗・注記～報告書刊行（本三里塚仲町遺跡）

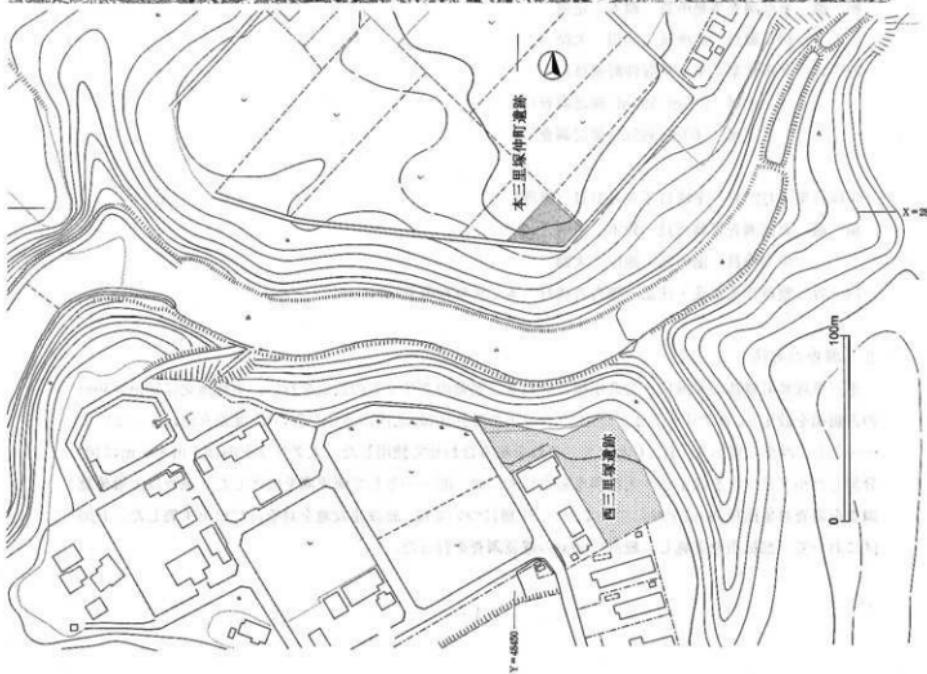
2 調査の方法

本三里塚仲町遺跡の全域に、公共座標に合わせて通常のグリッドの設定を行い、東西南北に50m×50mの方眼網を設定し、大グリッドとした。大グリッドの呼称法は、北西に基点を置いて、北から南に1, 2, 3……とし、西から東へA, B, Cとして、これを組み合わせて使用した。大グリッド内は5m×5mに100分割した小グリッドを設定し、北西隅を起点に00, 01, 02……として南東隅を99とした。調査は上層確認調査を調査対象面積595m²全域について行い、下層については、施設建設地を対象に12m²を実施した。F05区において一部拡張を実施し、総計で60m²の確認調査を行った。

第1図 本三里塚町可憐跡位置図



第2図 遺跡周辺地形図



第2章 遺跡の位置と環境

今回調査を行った本三里塚仲町遺跡は成田市木三里塚仲町240ほかに所在する。成田市は下総台地の東部に位置し、南は富里市、南東に芝山町、東は多古町、北は大栄町・下総町、西は栄町、本塙村・印旛村に接し、北辺は成田空港付近を分水嶺とし、南行する栗山川水系の高谷川や木戸川の水源となり、両河川は北西から南東に向かって流れ、九十九里海岸平野を経て太平洋に注ぐ。またこの分水嶺を北行するならば、利根川、香取の海へと流れる栗山川水系の根本名川などの多くの支谷上に展開する、現成田国際空港の広大な旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡群を望むことができる。

今回の事業地は成田国際空港の西南側に位置し、遺跡地近辺には佐倉七牧の一つである取香牧に関連した馬土手闘連の遺構等が多く見られるなど歴史的変遷を見ることのできる地域でもあり、昨年度調査の実施された、西三里塚遺跡は直接対面する台地上に展開するなど、木戸川水系の支谷端における縄文早期の遺跡展開に重要な地域に所在している。

第2章 本三里塚仲町遺跡

第1節 遺跡の概要

調査は上層確認調査を調査対象面積595m²全域について行い精査したが、直接遺構が検出されなかつたため、上層以降に関しては確認調査で終了とした。

ただ深耕により包含層が確認できない状態となっており、わずかに遺存する包含層からは縄文時代早期撫糸文系の土器が出土している。

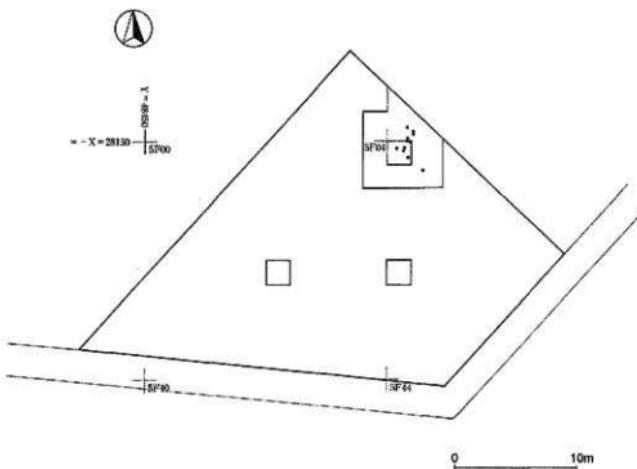
下層確認調査は調査対象595m²のうちの12m²を実施した。F05区においてIV層より安山岩製の剥片の出土が見られたため一部拡張を実施し、総計で60m²の拡張確認調査を行ったが、遺物の広がりが確認されなかつたため本調査へは移行しなかった。

1 本三里塚仲町遺跡下層確認調査（拡張調査を含む）の所見

遺物は4F-94・5F-04グリッドを中心にして東西3m、南北4mの範囲に拡がって分布している。分布状況からすると調査区外の北東方向へブロックが広がることも考えられる。土層断面の状況から判断すると立川ロームIV～V層の第1黒色帯に相当する時期の石器群ではないかと思われる。器種構成は調整痕・使用痕のある剥片3点、剥片6点、碎片2点、石斧再生剥片1点、石核1点、合計13点で構成されている。石材は珪質頁岩1点、安山岩A7点、安山岩B1点、チャート1点、メノウ1点、砂岩1点、黒曜石1点で安山岩Aが主体を占める構成となる。

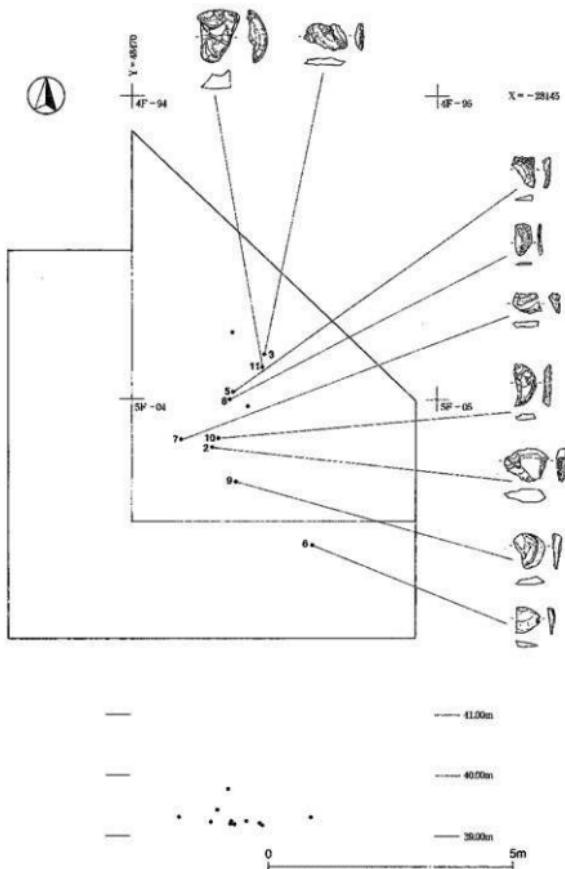
2 旧石器時代石器

1～3は調整痕のある剥片である。1は珪質頁岩製の調整痕のある剥片である。背面右側に大きく縫面



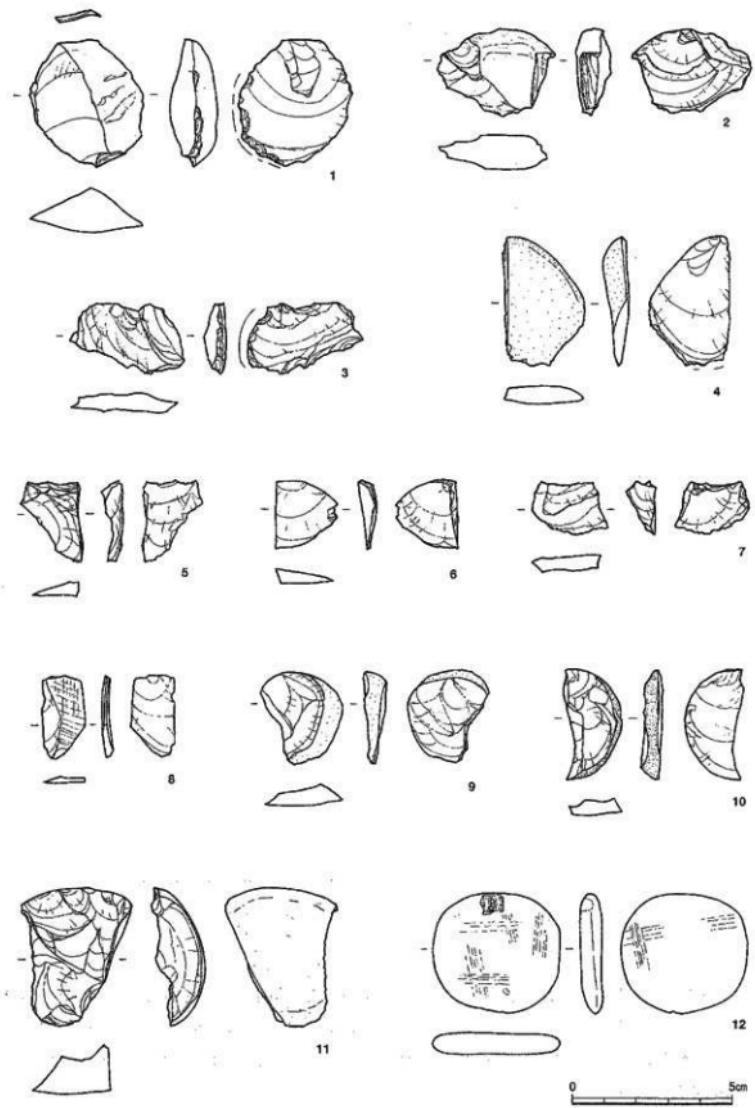
第3図 本三里塚仲町遺跡上層、下層確認調査範囲図

を残すやや縱長で丸みのある剥片で裏面左縁辺部から先端部にかけて比較的やや大きめの連続的な剥離による調整痕が残されている。Ⅱ～Ⅲ層の一括遺物であるがブロックに属する遺物と考えられる。全長4.05cm, 幅3.75cm, 厚み1.37cm, 重量17.36gである。2はメノウ製の調整痕のある剥片である。背面には大きく原礫面が残されている。背面左上から大きく剥離した調整痕のような剥離面が残されており裏面にもそれに伴う小剥離面が残されている。全長2.65cm, 幅3.86cm, 厚み1.05cm, 重量9.41gである。3は安山岩A製の調整痕のある横長の剥片である。裏面の左縁辺部に沿って連続的な小剥離による調整痕が残されている。全長2.19cm, 幅3.62cm, 厚み0.68cm, 重量5.61gである。4は安山岩A製の剥片である。背面はほぼ原礫面で覆われているため表面に近い部位のものであろう。背面側の右縁辺部は折れ面である。全長4.15cm, 幅2.49cm, 厚み0.73cm, 重量7.72gである。5は安山岩A製の小剥片である。背面上に左横方向からの剥離面が大きく残されている。全長2.53cm, 幅1.90cm, 厚み0.58cm, 重量2.52gである。6は安山岩A製の小剥片である。打面部から右縁辺部にかけて原礫面が残されている。左縁辺部は折れ面である。全長2.16cm, 幅2.06cm, 厚み0.48cm, 重量2.02gである。7は安山岩A製の小剥片である。右縁辺部は折れ面である。全長1.68cm, 幅2.24cm, 厚み0.71cm, 重量2.40gである。8は砂岩製の磨製石斧の再生剥片であろう。背面の右側に磨痕が認められる。他にこれに類似した資料がみられないため詳細は不明である。全長2.52cm, 幅1.40cm, 厚み0.28cm, 重量1.35gである。9は安山岩B製の小剥片である。打面部から右縁辺部に沿って丸く原礫面が残されている。あまり大きくない円礫を石核として使用していたことがわかる。全長2.84cm, 幅2.20cm, 厚み0.78cm, 重量3.95gである。10は安山岩A製の剥片である。打面部から右縁辺部に沿って丸く原礫面が残されている。あまり大きくない円礫を石核として使用していたことがわかる。全長3.45cm, 幅1.74cm, 厚み0.61cm, 重量4.90gである。11はチャート製の石核である。裏面側には大きく椭円礫の表面が残されて

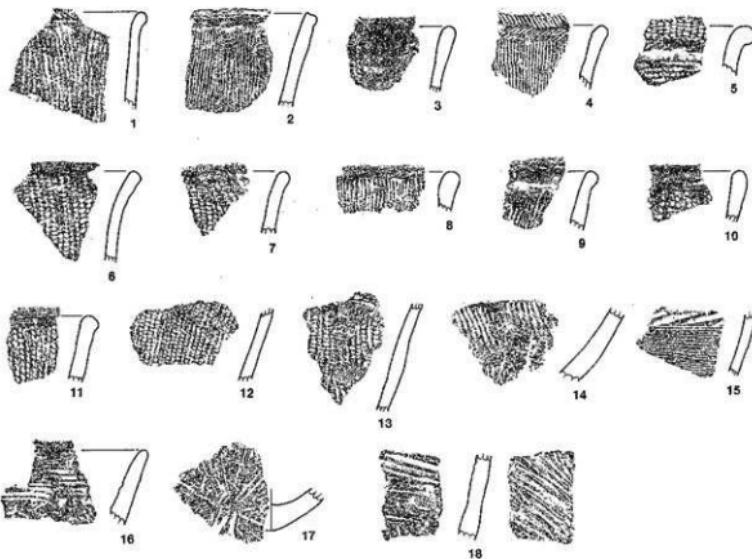


第4図 本三里塚仲町遺跡下層（拡張）調査範囲図 (1/80)

いる。あまり大きなものでなかったものと思われる。剥離は大きく打削した後に前面部分から2～3面の小剥離を行っていたようである。12は硬質砂岩製扁平円盤である。一部加工痕と覺しき穿孔がみられるが未製品の状態であるため詳細は不明である。装飾品になる可能性も考えられる。全長3.75cm、幅4.00cm、厚み0.71cm、重量18.04gである。



第5図 本三里塚仲町遺跡石器、石製品実測図



第6図 本三里塚包含層出土実測図

3 本三里塚仲町遺跡上層確認調査の所見

いわゆる撚糸文系と称される土器群である。本遺跡全域より出土しており、出土土器のはば9割をしめるが、耕作などの影響により細片化し、その全容が見て取れるものは少ない。

対岸に位置する西三里塚遺跡においては、ほぼ同時と考えられる土器群の出土が確認されている。特に縄文時代に関しては、早期から各期の遺物が少量ながら検出され、弥生時代から奈良平安時代に至るまでの遺物が見られた。本遺跡の今回調査区においては、きわめて限られた時期の土器、主に夏島式から船荷台式にかけてのものが中心である。

1~14・17はその時期にあたる土器片である。縄文を地文としたものが多くみられる。17は底部破片である。15・16は三戸式期に分類されるものである。18は条痕文系・茅山式期の土器片である。

第3章 まとめ

この遺物の構成からすると定型的な石器が認められないと剥片剥離が明確におこなわれた場所が特定できない。そういったことからこの遺物出土地点が北東側に大きく展開していく可能性も考えられる。

本遺跡は木戸川水系最奥部の樹枝状入り組んだ台地上に位置する。この小さく分けられた枝に連なるように縄文時代早期の土器群を出土する小遺跡が位置しており、特に後背台地、木戸川水系と利根川に向かう尾羽川水系の分水嶺となる現成田空港用地内の台地からは当該時期の大規模遺跡の調査例も知られており、詳細調査の進展と共にこれらの有機的な関連を検討する上で、今後共に重要な要素として、これらの遺跡の重要性を指摘してゆく必要があろう。



本三里塚仲町遺跡航空写真 (S=1/12,500) H17.1.9月撮影

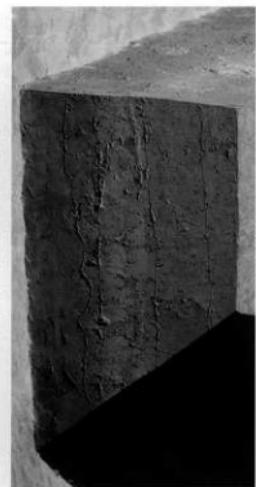




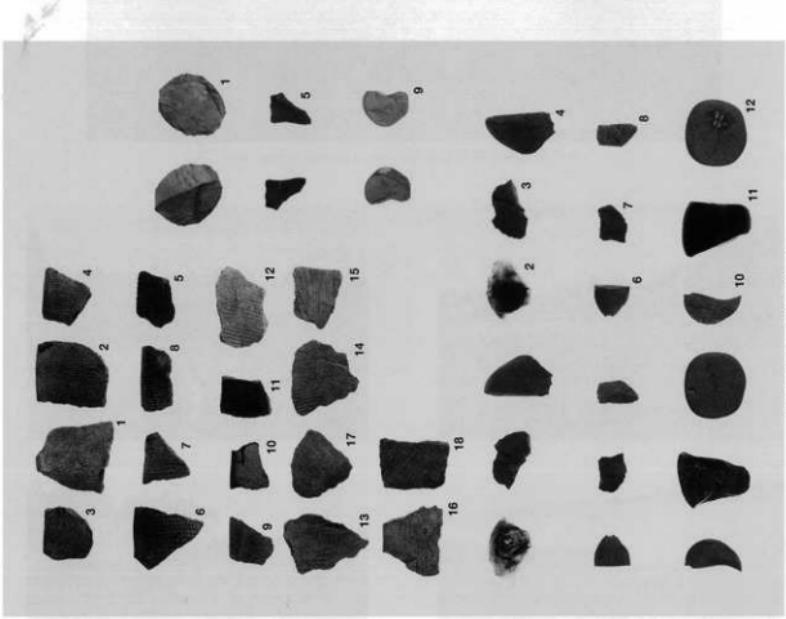
下層（拉張）調查區遺物出土狀況



下層（拉張）調查區遺物出土狀況



土層斷面



出土石器類・出土土器類

報告書抄録

ふりがな	のうぎょうようたいひしせつせっちにともなうまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	農業用堆肥施設設置に伴う埋蔵文化財調査報告書
副書名	成田市本三里塚仲町遺跡
巻次	1
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第537集
編著者名	池田大助 西口徹
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地2 TEL043-422-8811
発行年月日	西暦2006年3月24日

所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
本三里塚仲町遺跡	千葉県成田市 本三里塚仲町 240ほか	211	067	35度 44分 30秒	140度 23分 00秒	02050517～ 20050524	595m ²	農業堆肥施設の建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
本三里塚仲町遺跡		旧石器 縄文		石器 縄文時代早期～前期 土器片 石器、礫・礫片			旧石器時代の遺物集中地点の一部が検出された。	

千葉県教育振興財団調査報告第537集

成田市本三里塚仲町遺跡

—農業用堆肥施設設置に伴う埋蔵文化財調査報告書—

平成18年3月24日発行

編 集 財団法人 千葉県教育振興財団

発 行 社団法人 千葉県農業開発公社
千葉市中央区中央4丁目13番28号

財団法人 千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地2

印 刷 株式会社 正 文 社
千葉市中央区都町1-10-6